

JHFREPORT



「第4回FAIパラグライディングアキュラシーアジア選手権」より。古賀光晴選手のテイクオフ。(13ページから報告を掲載)

2022年度定時総会を開催しました

6月14日(火)、TKP九段下神保町ビジネスセンター3Aにおいて、正会員(都道府県連盟)22名の出席(会場出席10名、バーチャル出席12名)と、議決権行使24名、委任状1名、合わせて全国47都道府県連盟の参加を得て、2022年度JHF定時(通常)総会を開催しました。

新型コロナウイルス感染が終息せず、今年も規模を縮小、時間短縮、人数制限を施しての開催でした。

議題は以下のとおりです。

- | | |
|-------|--|
| 報告事項1 | 2021年度事業報告 |
| 報告事項2 | 2021年度決算報告・監査報告 |
| 決議事項1 | 貸借対照表及び損益計算書(正味財産増減計算書)の承認(賛成47、反対0、棄権0で承認された) |
| 報告事項3 | 2022年度事業計画 |
| 報告事項4 | 2022年度収支予算 |
| 決議事項2 | JHF役員選任規約一部改正について(賛成45、反対0、棄権2で承認された) |
- 総会議事録は、確定後、JHFウェブ

サイトの「情報公開について」のページに掲載しますのでご覧ください。理事会議事録もこのページに掲載しています。



2022年度総会はリアル・バーチャル両方の出席で開催。

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

スポーツくじ



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFの2021年度事業

「公益社団法人日本ハング・パラグライディング連盟2021年度事業報告」より

I 概要

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けて、パラグライディング日本選手権の開催中止、ハンググライディング世界選手権の2023年への延期がありましたが、感染症対策を行っていくつかの大会を開催することができました。JHF総会は、ZOOMアプリを利用したバーチャル参加も可能にした総会を開催しました。理事会や委員会についてもリモート会議が一般化し、感染症対策を十分行った活動を進めました。

残念ながら重大事故が発生しましたが、パラグライディング、ハンググライディング教本の改訂版発行、安全セミナーの開催等で一層安全に対する啓蒙活動を重視していきます。

1. 収支の現状

2021年度は教本頒布や会費値上げによる増収があり、その反面、総会開催費用の削減や新型コロナ感染症拡大の影響によって実施できなかった事業予算の未消化などのために、予算よりも収支が大幅に黒字になる決算となりました。これからの新型コロナ感染症の影響や経済の見通しは不透明ではありますが、JHFでは堅実な運営を進めます。

2. 組織運営等

- 1) 教員検定員による教員助教員更新講習会を13カ所で開催、70名が受講
 - 2) レスキューパラシュートリバック更新講習会を12カ所で開催、54名が受講
 - 3) 教員技能証学科検定については集合研修検定を2月26日～27日に開催、3名受検
 - 4) 上級タンデム検定会を開催、2カ所 15名受検
 - 5) 第8回JHFフォトコンテストを開催
- [特記事項]

- 1) 第43回鳥人間コンテスト選手権大会を協賛
7月31日(土)～8月1日(日) 滋賀県彦根市松原水泳場周辺
- 2) 後援イベント／体験会
○10月3日(日)「きぼうのとり航空教室」福島県福島市(ハンググライダー・トーイング体験)

○10月22日(金) 福島県浪江町なみえ創成小学校(ハンググライダー・トーイング体験)

3) 第26回スカイスポーツシンポジウムを協賛

11月27日(土) オンライン開催

II 事項別状況

1. 組織

1) 会員数

正会員47 フライヤー会員6,411名(2022年3月末有効登録数) 賛助会員12

2) 役員構成(2022年3月末現在)
理事8名(内会長1名、副会長2名)
監事2名

2. 会議等の開催

1) 総会

2021年6月通常総会

開催通知:2021年4月7日(水)

開催日:同年6月17日(木)13時～16時

開催場所:TKP九段下神保町ビジネスセンター 3A(東京都千代田区神田神保町)

議案:

報告事項1:2020年度事業報告について 報告事項2:2020年度決算報告について 決議事項1:貸借対照表及び損益計算書の承認について 報告事項3:2021年度事業計画について 報告事項4:2021年度収支予算について 決議事項2:JHF役員選任について

2) 理事会 ()内は出席者数

第1回 5月12日(理事7、監事1内リモート6)

第2回 5月24日(理事6、監事2内リモート8)

第3回 6月17日(理事8、監事2内リモート4)

第4回 7月1日(理事8、監事2内リモート9)

第5回 9月17日(理事8、監事2内リモート9)

第6回 12月3日(理事8、監事2内リモート1)

第7回 1月14日(理事8、監事1内リモート1)

第8回 3月11日(理事8、監事1内リモート7)

文書理事会 5月27日、7月5日、8月2日(2回)、10月20日、10月22日、12月21日、12月22日

3) 委員会

■ハンググライディング競技委員会

7月13日、10月9日他競技会開催時に実施

■パラグライディング競技委員会

3月4日他競技会開催時に実施

■補助動力委員会

8月18日、31日

■教員・スクール事業委員会

8月14日、8月26日、11月24日、12月7日

■安全性委員会

12月15日

■制度委員会

9月7日

■ハングパラ振興委員会

6月2日、10月20日、12月22日、2月16日

■役員選任実行委員会

6月1日、6月15日、2月5日

■委員長理事合同会議

2月4日

2021年度は、ハンググライディング競技委員会、パラグライディング競技委員会(大会中での開催)以外は、リモート会議を中心に開催された。上記のほかSNSや電子メール会議を実施し、経費削減に努めた。

3. 事業の実施状況

1) 普及振興活動

□JHFレポートを発行(4月、7月、11月、1月)*独立行政法人日本スポーツ振興センター・スポーツ振興くじ助成を受けて発行しています。

□都道府県連盟事業費の交付

□日本学生フライヤー連盟へ助成金の交付

2) フライヤー会員登録

2021年度新規・更新登録数4,873名

(2020年度 4,996名)

3) 技能証発行 ()内は2020年度ハンググライダー117枚(87枚)

パラグライダー798枚(779枚)

モーターパラグライダー8枚(9枚)

レスキューリパック認定証60枚(新規14・更新46)

4) 競技会の主催・公認・後援
 ハンググライディング6件(内FAIカテゴリーⅠ・Ⅱ:4件)
 パラグライディング12件(内FAIカテゴリーⅠ・Ⅱ:1件)
 ハンググライディング・パラグライディング同時開催0件
 5) 競技会の開催
 ■ハンググライディング
 ○日本選手権 10月7日～10日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加49名 不成立
 ○クラスV日本選手権 11月20日～23日 茨城県石岡市足尾山エリア 参加12名 日本選手権者:板垣直樹
 ○ハンググライディングシリーズ(参加49名、成立大会1)
 1位:名草慧 女子1位:野尻知里
 ○ハンググライディングフライトコンテスト[ストレートディスタンス] クラスV 1位:岡田伸弘(240.12km) クラスⅠ 1位:砂間隆司(196.79km) [アウトアンドリターン] クラスV 1位:古坂学俊(116.91km) クラスⅠ 1位:石坂繁人(90.94km) [トライアングル] クラスV 1位:山本剛(121.29km) クラスⅠ 1位:田中元気

(117.59km) [デュレーション] 1位:鳥海真弓(6:43)
 ■パラグライディング
 ○日本選手権 5月1日～5日 和歌山県紀の川エリア 新型コロナ感染症のため中止
 ○アキュラシー日本選手権 11月27日～28日 静岡県富士宮市猪之頭エリア 参加46名 日本選手権者:和田浩二 女子日本選手権者:大西一枝
 ○ジャパンリーグ(参加人数140名、成立大会4) [オープンクラス] 1位:多賀純一 女子1位:平木啓子 [スポーツクラス] 1位:阿知波広和
 ○ジャパン2リーグ(参加人数114名、成立大会2) 総合1位:齊藤光秋 女子1位:齊藤小百合 チーム1位:ソラ&ドロシー
 ○クロスカントリーリーグ(43名464本) 1位:中目みどり(479.2km) 最長フライト:中目みどり(204.1km)
 ○アキュラシージャパンリーグ(参加人数63名) [スクラッチクラス] 1位:和田浩二 女子1位:大西一枝 [ハンディキャップクラス] 1位:森山拓 [学生クラス] 1位:山澤新太 [チーム] 1位:スカイ朝霧

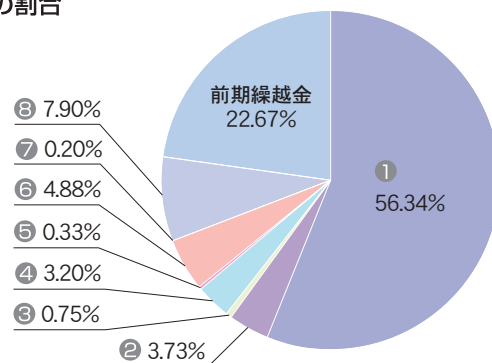
6) スクール・エリア情報の収集及び公開
 □スクールサイト登録校165件(削除4件、新規2件)
 □エリア情報掲載174件(削除1件、新規1件)
 7) 海外関係団体活動
 □CIVL総会 2022年1月27日～30日 セルビア+リモート(ZOOMミーティング) 出席者:岡芳樹(デレゲイト)、牟田園明(オルタネート)
 8) 世界選手権等へのチーム派遣
 □第23回FAIハンググライディング世界選手権/第9回FAIハンググライディングクラス5世界選手権 7月18日～30日 北マケドニア…2023年に延期
 □第17回FAIパラグライディング世界選手権 参加日本選手:5名 10月31日～11月13日 アルゼンチン
 □第11回FAIパラグライディング・アキュラシー世界選手権 参加日本選手:3名 10月6日～16日 北マケドニア
 9) その他
 □機体型式登録78件(パラグライダー78件、ハンググライダー0件)
 □機体情報登録0件

2021年度決算報告より

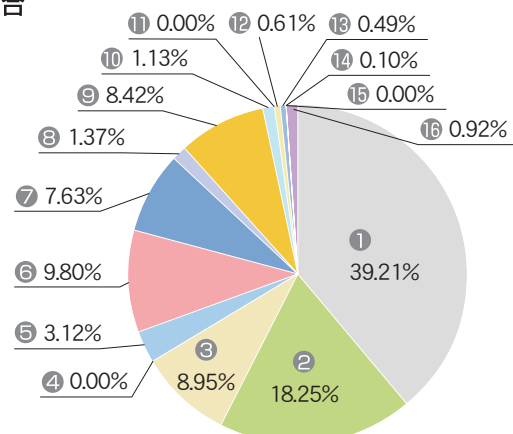
収 入 (単位:円)	
①会費等	44,263,521
②技能証の発行に基づく収入	2,932,000
③競技に関する収入	589,000
④教本等の頒布に伴う収入	2,518,000
⑤検定会参加費	260,000
⑥補助金	3,831,524
⑦機体登録費	156,000
⑧その他	6,204,792
前期繰越金	17,813,113
合 計	78,567,950
特定試算取崩	3,906,540

支 出 (単位:円)	
①会員サービスのために	20,182,965
②JHFの維持運営のために	9,394,625
③都道府県連盟の補助のために	4,605,360
④公益事業の推進のために	0
⑤世界選手権、アジア選手権や検定会のための積立	1,604,752
⑥広報・普及活動のために	5,042,933
⑦日本選手権や国体デモスポのために	3,928,655
⑧競技のために	707,166
⑨よりよい教習環境のために	4,332,826
⑩委員会活動のために	579,103
⑪補助動力のために	0
⑫学生の補助のために	315,000
⑬事故調査や安全のために	252,780
⑭海外との交流のために	50,000
⑮制度のために	0
⑯総会のために	473,003
合 計	51,469,168

収入の割合



支出の割合



2021年度の委員会活動

2022年JHF総会資料「2021年度委員会活動補足」より

JHFには現在八つの常設委員会があります。各委員は連盟活動の担い手として、それぞれの課題に取り組んでいます。以下は2022年総会で報告された委員会の活動内容です（一部略）。

なお、各委員の任期は2年間です。今期の委員は今春選任され、2024年3月31日までが任期となります。フライヤーの「自由にフライトできる」環境を守るための活動を応援してください。HG：ハンググライディング、PG：パラグライディング、MPG：モーターパラグライディング

ハンググライディング競技委員会

委員長：牟田園 明

1) ルールブックの改訂

2) 委員会ホームページの運営

公認大会の情報、ハングシリーズ大会のエントリー情報の更新は随時実施

3) FAIハンググライディングクラス1 & クラス5 世界選手権選手派遣（北マケドニア、クルシェボ）

感染症拡大の影響を受けて開催中止、2年後の2023年に延期

4) 2021年ハンググライティング・クラスI 日本選手権開催（茨城県足尾山エリア）10月7日～10日 49名参加 タスク2本成立

当初は2月に紀ノ川で予定されていた大会を10月に延期。成立条件を僅かに満たさなかったため、日本選手権者は不選出。

5) 2021年クラスV 日本選手権開催（茨城県足尾山エリア）11月20日～23日 12名参加 タスク2本成立

当初は4月に予定されていた大会を11月に延期。日本選手権者：板垣直樹、2位古坂学俊、3位松田隆至

6) ハンググライディングシリーズ管理運営 参加人数49名 総合1位名草慧、2位大門浩二、3位外村仁克 女子1位野尻知里、2位櫻井さやか、3位内田秀子 クラスV 1位板垣直樹、2位塩野正光、3位岡田伸弘

7) フライトコンテストの運営

[ストレートディスタンス] クラスI 1位砂間隆司196.79km、2位氏家良彦175.23km、3位太田昇吾172.84km クラスV 1位岡田伸弘240.12km、2位

松田隆至223.63km、3位佐々木則生218.12km [アウトアンドリターン] クラスI 1位石坂繁人90.94km、2位大山真哉、3位田中元気77.54km クラスV 1位古坂学俊116.91km、2位穴戸俊之99.19km、3位山本剛77.39km [トライアングル] クラスI 1位田中元気117.59km、2位氏家良彦106.92km、3位石坂繁人99.76km クラスV 1位山本剛121.29km、2位松田隆至97.2km、3位古坂学俊90.24km [デュレーション] 1位鳥海真弓6:43、2位岡田伸弘6:09、3位松田隆至5:41

8) 各種大会のJHF公認および後援申請に対する審議および承認

9) SNSによる情報発信

パラグライディング競技委員会

委員長：岡 芳樹

1) ルールブックの改訂

2) WEB事務局・ホームページ管理

3) 第17回パラグライディング世界選手権（アルゼンチン、Tucuman：10月31日～11月13日）へ選手派遣 男子4名：廣川靖晃、岩崎拓夫、成山基義、小林大晃、女子2名：平木啓子、成山奈緒（個人参加） 参加選手数：148人（内女子18人） 参加国：34か国 総合1位Russell OGDEN（イギリス）、2位Honorin HAMARD（フランス）、3位Luc ARMANT（フランス）、25位小林大晃、50位成山奈緒、108位平木啓子、112位廣川靖晃、121位成山基義、130位岩崎拓夫 女子1位Yael MARGELISCH（スイス）、2位福岡聖子（フランス）、3位Klaudia BULGAKOW（ポーランド）、5位成山奈緒、12位平木啓子 国別1位イギリス、2位スイス、3位チェコ、17位日本

4) 第11回アキュラシー世界選手権（北マケドニア、Prilep：10月6日～16日）へ選手派遣 男子2名：岡芳樹、古賀光晴、女子1名：山口香代 参加選手数129人（内女子31人） 参加国32か国 総合1位Seungil AHN（大韓民国）、2位Vlastimil VACHTL（チェコ）、3位Dageon LEE（大韓民国）、39位岡 芳樹、82位古賀光晴、111位山口香代 女子1位Dageon LEE（大韓民

国）、2位Marketa TOMASKOVA（チェコ）、3位Eunyoung CHO（大韓民国）、22位山口香代 国別1位大韓民国、2位チェコ、3位スロベニア、20位日本

5) Jリーグ、J2リーグ、XCリーグ、AJリーグ管理

[Jリーグ結果] 参加人数140名、成立大会4

オープンクラス1位多賀純一、2位上山太郎、3位成山基義 オープンクラス女子1位平木啓子、2位山下敦子、3位中目みどり スポーツクラス1位阿知波広和、2位長島信一、3位四方純

[J2リーグ] 参加人数114名、成立大会2

総合1位齊藤光秋、2位盛龍一郎、3位齊藤小百合 女子1位齊藤小百合、2位鈴木彩、3位坂本智春 チーム1位ソラ&ドロシー、2位Airkassy、3位YUPC

[XCリーグ] 43名、464本

1位中目みどり479.2km、2位：阿知波広和406.8km、3位：鈴木和雄389.0km

最長フライト中目みどり204.1km

[AJリーグ] 参加人数63名、成立大会1

スクラッチクラス1位和田浩二、2位岡芳樹、3位森山拡 スクラッチクラス女子1位大西一枝、2位：高橋美佳、3位山口香代 ハンディキャップクラス1位森山拡、2位齊藤光秋、3位和田浩二、岡芳樹 学生クラス1位山澤新太、2位内野僚太、3位落合南 チーム 1位スカイ朝霧、2位びよびよ、3位Chuuしちゃだめ、エキストラ

6) 2021年度XC日本選手権開催（和歌山県紀の川エリア）5月1日～5日 コロナのため中止

7) 2021年度アキュラシー日本選手権開催（静岡県猪之頭エリア）11月27日～28日 3ラウンド成立 46人参加 規定により日本選手権として成立

日本選手権総合1位和田浩二、2位岡芳樹、3位森山拡、4位齊藤光秋、5位大西一枝、6位吉原薫 日本選手権女子1位大西一枝、2位高橋美佳、3位山口香代

安全性委員会

委員長 伊尾木 浩二

1) 2021年度事故件数

報告件数18件 (HG・PG衝突事故1件含む) PG14件 (内重症者数8名) MPG2件 (内重症者数1名) HG3件 (内重症者数3名)

2) 事故情報の集計及び注意喚起など実施

3) セーフティーノーツの管理 (担当: 竹村)

4) ハング機体整備制度・現状調査 (担当: 西本)

5) 安全性委員会ホームページ状況管理 (担当: 伊尾木)

6) JHFレポートへ安全に関する記事の掲載 232号: 2020年事故情報から (執筆: 竹村) 233号: ハーネスのベルト締め忘れを皆無に (執筆: 竹村) 234号: 安全マージンについて考える (執筆: 竹村) 235号: ランディングアプローチでの事故について (執筆: 目黒)

7) チェック5タグの普及促進 (安全注意喚起)

8) 機体登録制度の推進と改訂検討 EN926-1, EN926-2 認証機体の登録簡素化 (担当: 竹村)

9) レスキューパラシュートリパックのテキストの改定 (担当: 伊尾木)

教員・スクール事業委員会

委員長 北野 正浩

1) 教員実技検定会 1名 (HG)

2) 教員学科集合検定会 2022年2月26日~27日開催 関東 (茨城県nasaスクール) と関西 (大阪舞洲) の会場受検 3名 合格1名

3) 上級タンデム技能証検定会 (2回開催) 朝霧11月13日~14日 (12名受検 合格5名)、朝霧2022年1月15日~16日 (3名受検 3名合格) 紀の川12月4日~5日は予定していたが応募者少なく中止

4) 教員助教員更新講習会 13カ所 70名

5) レスキューパラシュートリパック認定証更新講習会 12カ所 54名

6) レスキューパラシュートリパック認定証検定会 8カ所 14名

7) PG教本改訂版の発行 (2021年3月)

8) HG教本の発行 (2021年6月)

9) HGノービスパイロット証の新設

10) スクール登録制度の見直し (JHFウェブサイトに掲載する項目を確定)

11) 学科試験問題の見直し (PG、HG、MPG) (教本発行に合わせて完成)

12) 上級タンデムテキストの改訂と検定細則の見直し (検定細則は年度内完了、テキストはタンデム証と分冊の作業があり来年度持ち越し)

13) 上級タンデム技能証の継続検定 (2022年度) に備えた体制準備 (検定会の日程調整ならびに検定員の受検方法確定)

14) 教員の資質向上の支援 (教員学科検定の予備講習を実施。検定前の6週間に渡り、毎週火曜日19時から20時までオンラインで講習)

補助動力委員会

委員長 須藤 彰

1) 事故報告

4月: 事故ではなかったが、大変危険なタンデムフライトがテレビで放映され問題になった (注意喚起を行った)

10月: 三重県でMPG着水溺死事故発生 (65歳男性、浮力体は着用していた) 新型コロナ感染症拡大防止のため、各地で海岸閉鎖など一時的な使用ができなくなった (茨城県・千葉県・愛知県・静岡県・神奈川県)

2) 注意喚起

タンデムフライト・水没事故

3) イベント・大会・活動

JPMAとの共同開催について、5月から8月にかけて大会準備をしてきましたが、コロナの影響により、9月の大会イベントの1週間前に、中止発表いたしました (全国で感染者拡大のため)

制度委員会

委員長 中瀬 誠

1) JHFにかかわる制度の定款、規約、規程、規則などの文書管理

1 理事会諮問事項への答申等

規程改正案作成と理事会上程

a. JHF技能証規程レスキューパラシュートリパック編改正

リパック証検定認定者を教員から教員検定員に変更

b. JHF更新講習会規程

対象認定証の追加

c. JHF技能証規程ハンググライディング技能証規程改正

HG教本の改訂に伴う改正

d. JHF技能証規程 (HG/PG/MPG) 技能証規程改正

成人年齢引き下げに伴う改正

2 JHFホームページ上の総覧整備 (規程改正およびFAI部分)

<https://jhfh.hangpara.or.jp/office/office.html>

2) 他委員会および事務局との連携

1 各種制度導入および改正について 教員・スクール事業委員会と検討

・HG教本の改訂作業に協力 (JHF技能証規程ハンググライディング編を改正)

・スクール・クラブ・エリア各登録制度改正 (JHFスクール登録規程、JHFエリア・クラブ登録規程を改正)

ハングパラ振興委員会

委員長 井上 潔

1) 今飛んでいる人が飛び続けられる環境作り

1 フライヤーズボイスの定期更新体制の運用と見直し

・2021.11「Flyers Voice22 横田 開」

2 飛ぶのをやめてしまった方の状況分析

3 学生が卒業してやめてしまう問題の分析と対応策検討 (学連と連携)

4 家族向けパンフレット「ご家族の皆様へ (仮称)」制作、学生向けに配布

5 SNS (Facebook等) を活用した情報発信の検討 → 写真コンテスト検討

6 SportsNaviへの投稿

・2021.12.17「ハングシリーズが1年ぶりに開催」2021年ハング日本選手権

・2022.01.17「2022年ハンググライダー日本選手権、開催」

7 PR Timesとの協力関係締結 (契約条件確認中)

2) 体験会等イベントへの協力

「新しい生活様式」におけるイベントの模索

3) 外部組織との連携

VR体験に関する大学研究室との協力体制維持

役員選任実行委員会

委員長 鈴木 由路

1) 2021年度総会における役員選任の実施

2) 役員選任規約の改定検討

JHF理事の活動報告と目標

任期後半に入った理事たちの思い

2021年6月17日の定時総会で、正会員（都道府県連盟）によって2名の監事とともに選任された8名の理事たち。それぞれの担当事業・委員会活動に取り組んで、1年間が過ぎました。理事・監事の任期は2年間。折り返し点を通過した理事たちに、これまでを振り返って、また、コース後半の活動について語ってもらいました。

コロナ禍の影響を大きく受けながらも、理事と委員の連携によって連盟活動は少しずつ前進を続けています。



理事 会長
安田 英二郎

エリアを残すために

JHFフライヤーの総会員数は減少傾向がにぶってきたようですが、会員の高齢化に伴った会員減少は今後も続きます。そのため、もともとフライヤーの人数が少ない地方ではフライトエリアの閉鎖やフライトクラブの解散消滅といった事態も発生するでしょうし、教員がいなくなりスクールが無くなることによりその地域での新たなフライヤーの誕生・供給が無くなることも予想されます。先輩方が作り上げてきたエリアの歴史が失われるのはとても残念なことですし、将来再びエリアを作り上げるよりは現在あるものをそのまま残す方が容易なものです。

JHFはエリア存続のために努力されている方々を応援します。JHFに求める具体的な支援策がありましたらお知らせください。検討させていただきます。

また今年はJHFの前身となる組織が生まれてから40周年となります。普及活動の役に立つ40周年行事を企画中です。



理事 副会長
芦川 雄一郎

ハングパラ振興委員会を担当している。仕事の都合で会議には出席できないことが多いが、議事録等で報告を受

けている。今後は日本航空協会を含め、他の航空スポーツ団体とも連携、情報を共有して委員会と一緒に普及振興について考えていきたい。

事務局担当理事として、JHF白書作成の協力をしており、今年度中完成予定としている。また事務局の業務は多岐に渡っていることもあり、業務効率化を考えていきたい。



理事 副会長
小林 秀彰

理事に就任して6年目に入りました。2022年度の個人的な目標は

- 1 JHF財務の単年度黒字を目指す
 - 2 JHFデータベースの再構築
 - 3 WEB申請、カード決済、電子マネー支払いの推進
- 頑張ります。



理事
大澤 豊

ハンググライダー競技委員会を担当しています。

新型コロナウイルスの影響を受けて、昨年度の日本選手権の中止、世界選手権の延期もあったが、少しずつ大会開催はできている。安全に参加者が楽しめる大会を支援していきたい。

競技委員会は、競技レベルの向上を目的として「日本ハンググライダー競技者育成プログラム」を準備しているため、協力をしていきたい。



理事
竹村 治雄

私は、理事就任前は安全性委員会並びにハングパラ振興委員会の委員として、JHFの活動に携わってきました。現在は安全性委員会担当理事として、今後もハング・パラグライダーに関してもっと多くの安全性に関する情報収集と分析を行える体制と制度の整備を行いたいと考えています。

ハング・パラグライダーの普及と振興に関しても、このスポーツに対する一般の方々の理解を深め、同時にこのスポーツに興味を持たれた方が実際には始める際に何が障壁となっているかを分析し、より多くの方がこのスポーツを楽しめる環境の構築に貢献したいと思います。

私は、大学でIT系の教員としての情報通信やe-Learningに関する教育・研究を行っていますが、この経験を利用して組織運営の効率化、迅速な情報公開、情報発信力や安全教育の強化にも貢献したいと思います。また、これらの活動を通して組織の健全な発展を目指したいと思います。どうぞよろしくお願いします。



理事
橋田 明夫

こんにちは。昨年初めて理事に選出させていただきました。右も左も分からないまま1年が経過しましたが、振り返ってみての率直な感想は「結構忙しかった」というものです。私は長年補助動力委員会の委員をやらせていただいていたのですが、理事は何をしているのだろうか？ というのが本音でした。ところが理事の職についてみると、会議は相当数ありますし委員会に関しても勉強しなければいけないことが数多くありました。

担当事業につきましては、補助動力委員会と教員・スクール事業委員会です。補助動力委員会については「MPG教員の試験内容、更新講習会内容」を早急に取り決める必要があります。夏頃までには形になる方向で進めています。教員・スクール事業委員会は上級タンデム技能証の更新時期となり、全国で検定会が開催されております。また、JHF40周年事業についても積極的に進めさせていただいております。

全国の会員の皆様、これから事業遂行に関して様々なことでお手間を取らせることがあるかと思いますが、どうぞご協力をよろしくお願いします。



理事
濱田 革

パラグライディング競技委員会、ハングパラ振興委員会を担当しています。

パラグライディング競技委員会では、各地の大会開催時にルールの改正などを議論しています。昨年度は、TP通過時の精度や制限高度の判定方法について検討しました。

また、私が理事になった時期は、新型コロナウイルスの影響により各地の大会が中止されており、大会再開に向けた新たなルール作りが必要となっていました。そこで、感染予防や開催地の理解を目的として、参加選手の健康チェックシートや感染防止書約書を新たに整備し、ハンググライディング競技委員会、各大会事務局、理事会と連携して大会再開を果たしたところです。

今後も、担当理事として、ハンググライディング競技委員会や理事会との調整役をつとめていきます。

振興委員会では、ハング・パラの魅力や楽しさを一般の方々に効果的に伝える方法を継続的に議論しており、スポーツナビでハング大会結果を発表するとともに、新たにPR TIMESとの契約を調整しています。また、SNSを活用したフォトコンテストやハング・パラの大会に一般観客を呼び込む仕組み

を検討しています。

東京オリ・パラでは、マイナーな競技が改めて注目され、マスコミへの露出の重要性を再認識したところです。新年度には具体的に取り組みを進め効果的なPRをしたいと考えています。

私個人は、昨年10月から半年間全国各地のエリアを訪問し、各地のフライヤーと交流しました。

全国的にエリアの維持やフライヤーの減少は共通の課題ですが、スクール活動がしっかりしている地域では、若い学生だけでなく、中高年のフライヤーも増えているのを実感しました。

今年秋に2年目の全国行脚に出発しますが、昨年度行けなかった四国・中国・関西への遠征も考えており、いろいろな機会を通じて各地域のフライヤーと交流しJHFの運営に生かすとともに、コロナ禍のなか、アウトドアスポーツであるスカイスポーツのメリットを活かした普及・振興につなげて行きます。



理事
山口 隆文

理事として初めての1年間を終えました。委員をしていたので年間の流れを理解しているつもりでありましたが、実際理事になると委員では見えな

かったことを感じるが多々ありました。

そして、理事という立場になり疑問に思っていたことが解消された部分とさらなる疑問を感じる部分もございました。疑問点が解消されるように活動をしたいと考えております。

教員・スクール事業委員会の担当理事として、委員会の方々と一緒になって活動してきました。

2022年冬に教員学科検定会を大阪と茨城の2会場をリモートでつなぎ開催。

大阪会場では、和歌山県・大阪府・兵庫県の3府県連盟と同会場を利用して安全講習会も開催し、検定会と都道府県連盟の事業を協力して実施することで、事業のボリュームを上げる試みを実施。これは次につながる結果がありました。

2022年春からは上級タンデム検定会の継続検定が始まり、それに伴う細則等の追加による整備を行いました。が、きっちりと整備したようであとから問題点などが出て、都度修正を加えている状況です。

さらに、予定していたタンデム技能証教本を今年度中に発行できなかったことが反省点としてあります。

今年は、間に合わなかった部分や不透明な部分をより透明化を図るなどして、委員会と理事が一体となって事業を進めたいと考えております。

第9回フォトコン 作品募集中！

第9回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテストへの参加作品を募集しています。応募締切は2022年9月5日（月）です。郵送の場合は当日消印有効。デジタルファイルならメールで気軽に応募可能です。カラー、モノクロ、ソフトウエアで加工した作品も可。詳細はJHFウェブサイトをご覧ください。どうぞお忘れなく！

ハンググライディング・パラグライディングの素晴らしさ、楽しさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝えられる「写真」が、普及と振興のために役立つと考えて始めたフォトコンテストは今年で9回目になります。

今回は、応募作品をカレンダーだけ

でなく、より積極的な広報に役立てるため、テーマに①が加わりました。こちらへのご応募もお待ちしております。

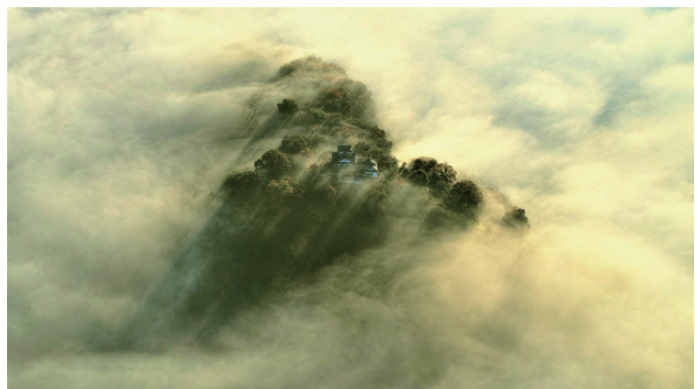
【第9回フォトコン作品テーマ】

①ハンググライダー、パラグライダーが中心となって撮影された写真で、一般の人の目を引きつける作品

②ハンググライディング、パラグライ

ディングの楽しさ、素晴らしさ、そして身近なスカイスポーツであることを伝える作品

今回も応募された全作品中の14点をJHFカレンダー2023年版に採用の予定です。カレンダーは「写真が美しい」と一般の方にも好評で、楽しみにしていただいています。



第8回JHFフォトコンテスト最優秀賞「朝霧の大野城」江端邦昭さん作品

上級タンデム技能証制度の意義と検定

JHF教員・スクール事業委員会 委員長 北野正浩

上級タンデム技能証制度を開始して3年が経過しました。この技能証は、タンデム飛行の安全性と確実性を向上させることを目的として2019年に新設しました。今回、初回合格者の皆さんが3年の有効期限を迎えるにあたって、この制度の意義や検定の仕方について改めてご説明します。



上級タンデム検定会でのタンデムフライト実技検定。



学科講習で新しい技術や機材・事故対策等の情報共有。

なぜ上級タンデム証を作ったか

上級タンデム技能証を作った理由は、そもそも最低15本の練習で取得できる「タンデム証」で、どんな相手でも同乗させて飛ぶことができるという制度に無理があったためです。委員会で1年間かけて議論を重ね、諸外国の制度と事例も研究して、日本で実現できる制度を追求しました。未経験者を同乗させる以上、最低限これだけの技量と知識は持っていてほしい、というのが上級タンデム証の基準です。

検定について

上級タンデム検定会は2日間の日程で、学科講習と学科試験、実技検定を行います。

実技検定は、ソロフライト検定で合格した者のみがタンデムフライト検定に進みます。検定員は3名以上を配置することで合格基準を一定に保ちます。また、検定員のうち少なくとも1名は同一の企業グループやスクールに属さない者とする事で、公平性を担保しています。受験者は事前に健康診断書と使用機材一覧を提出し、基準を満たさない場合は受験できません。

検定会は各地で開催しており、開催予定はJHFウェブサイトに掲載しています。教員・スクール事業委員会が場所と日程を決めて開催するものの他に、上級タンデム検定員（上級タンデ

ム証を持つ教員）が委員会に検定会開催を申請し、委員会が実施可能と判断すれば開催することもできます。

検定を受ける機会が少ないというご意見も寄せられていますが、検定会に限らずJHFの事業は理事会や委員会が全て決めて押しつけるものではなく、積極的な意思を持つ皆さんと共に作り上げていくものです。委員会の予定する検定会への参加が困難な場合は、お近くの検定員と相談して、検定が可能なフライトエリアでの開催をご検討ください。

継続検定について

上級タンデム技能証には3年の期限（合格日から3回目の3月31日まで）があり、初年度に合格した皆さんは、2022年度末（2023年3月31日）で有効期限が切れます。

有効期限が切れると、同乗できる相手に制限のある「タンデム証」に戻ります。

引き続き上級タンデム証が必要な方は、今年度中に受験してください。

実技検定の内容と判定基準は通常と同様です。学科試験は免除で、学科講習の中で新しい技術や機材、事故対策等の情報共有をします。コロナ禍により医師の診断書の入手に時間がかかる場合もあるので、早めの準備をお勧めします。

社会に認められるタンデム飛行を

上級タンデム技能証は、誤解を恐れずにいえば、タンデムパイロットの既得権を守るためではなく、パッセンジャーとして同乗する方々を守るためのものです。安全性と確実性を守る制度を維持することで、タンデム飛行が社会に認められ、今後も続けていけることを目指しています。

すでに一部の体験予約サイトでは、タンデム飛行を実施するスクールに対して、保有資格の詳細や、客観的な運行基準の提出を求め始めています。もしも、上級タンデム証を取得せずに未経験者とタンデム飛行をしている方がいるとしたら、それは自由に飛べる環境を自ら壊していると言わざるを得ません。

上級タンデムの実技検定は一発勝負の難しさはありますが、検定項目は特殊な技術を要するものではなく、パイロット証の技量があれば合格できます。

皆さんの大切なご家族やご友人がタンデム飛行を希望されたときに、パイロット証レベルの検定項目を合格できないタンデムパイロットに、安心して任せることができるでしょうか？

空を飛ぶ楽しさを未経験者にも伝えることのできるタンデム飛行を今後も続けていけるよう、上級タンデム技能証制度を皆で守っていきましょう。

今年度の上級タンデム検定会開催予定

石川県獅子吼エリア（開催済み 6/1～2）
静岡県朝霧エリア（開催済み 6/18～19）
北海道ルスツエリア（開催済み 6/20～21）
山形県十分一エリア（開催済み 7/5～6）
静岡県朝霧エリア（11/14～15）
和歌山県紀の川エリア（12/13～14）
※2023年2月はありません

タンデム証と上級タンデム証の比較

	タンデム証	上級タンデム証
同乗者	○同居親族 ○パイロット証保持者 ○上級タンデム証を持つ教員の監督下であれば、フライヤー登録者も同乗可能	無制限
有効期限	なし	3年（合格日から3回目の3月31日まで） 継続検定：有効期限の最終年度中に受験して合格すれば、3年延長される

JHFの動き

有効期限のある技能証等の更新時期を統一します

JHFで発行している技能証や認定証等の有効期限は、年度末（3月31日）のもの、年末（12月31日）のもの、発行から3年間有効のものなど、統一されていませんでした。

更新の手続き忘れが多いこと、事務手続きが非効率であることから、有効期限を年度末（3月31日）に順次統一することを決定しました。

[有効期限のある技能証]

□ハンググライディング／パラグライディング教員技能証

□ハンググライディング／パラグライディング助教員技能証

□ハンググライディング／パラグライディング教員検定員証

□ハンググライディング／パラグライディング助教員検定員証

□レスキューパラシュートトリパック認定証

□上級タンデム技能証

当初は、上級タンデム証の有効期限と技能証規程との整合性が取れないことから、教員・スクール事業委員会と制度委員会が上級タンデム証について検討。その結果、上級タンデム証だけでなく、更新が必要なすべての技能証／検定員証／認定証について、有効期限の変更（技能証規程総則編の改定）を制度委員会から理事会に上申。これが7月4日の文書理事会で承認されたものです。左記の技能証等をお持ちの方は、有効期限にご注意ください。

教員、助教員技能証をお持ちの方で、2022年の年末に有効期間が切れる予定の方は、2023年3月31日までの有効となります。今年度末までに更新講習会を受けていただいたうえで更新の手続きをされるようお願いします。

皆様のご理解とご協力をお願いします。不明な点はJHF事務局まで、できるだけメールでお問い合わせください。
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

上級タンデム検定会

各地で開催中です

2022年度の上級タンデム検定会を各地で開催中です。新規受検の方だけでなく、2023年3月31日が有効期限の方の継続検定も行っています。

開催スケジュールは左ページの「上級タンデム技能証制度の意義と検定」、JHFウェブサイト「上級タンデム技能証検定会のご案内」をご覧ください。

開催が決定している場所・日程以外でも、受検希望者が10名以上集まれば開催を検討します。受検をご希望の方はJHF事務局にご連絡ください。



朝霧での上級タンデム検定会。検定の詳細説明を聞く。

県連だより

■大学新入生を空に誘う体験会開催

東京都ハング・パラグライディング連盟

2022年4月16日・17日の週末、都内の大学の新生たちを空に誘うために、新歓体験会を23区内で開催することができました。これは学連の活動をサポートするために、毎年河川敷の公園を確保し、インストラクターを都内まで呼ぶための助成金を補助する活動で、最盛期には遠いフライトエリアまで行かず初体験した学生が、スカイスポーツに殺到してきたこともある実績のある活動です。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生で、2年間実施できなかったもので、去年おとしの都内新歓体験の経験がない先輩たちが、試行

錯誤して再開してくれました。

プログラムは、2日間の日程で前後それぞれの日を、さらに午前と午後の2クールに分け、それぞれ50人ずつの新生を呼ぶものでした。それぞれの開始時間30分前に、先輩たちが手分けして最寄りの鉄道駅まで歩いて迎えに行き、集団の固まりになって周辺住民に迷惑をかけないよう、丁寧に誘導していました。

久しぶりの新歓体験会だったこともあり、各大学の事情からか、総勢200人のキャパで用意したところ120人が実体験できました。そのおかげか全員ハングもパラも複数回体験でき、歓声が響き渡る盛況になりました。

うれしいことに、2019年の前回開催まで、年に一度河川敷を譲り合って体験会場を分けてくれた、ラグビークラブの人たちも変わらず協力してくれました。

ただ、雨雲が通過するかもしれないという予報で、最新気象情報をリアルタイムで注視しながらの実施となりましたが、結果は幸いなことにポツポツとわずかな雨が通過しただけで済みました。

都会の高層ビル群を背景に見ながら、空中に浮くのは、なかなかない体験だと思います。学連をはじめ指導関係の方々へ、お疲れさまでした。



23区内での新歓体験会で120名がスカイスポーツ体験。



ラグビークラブの人たちが河川敷を分け合ってくれた。



経験がない先輩たちも試行錯誤しつつ体験会を再開。

夏の空！安全に楽しく飛ぶためには

JHF安全性委員会 委員長 伊尾木浩二



夏空に発達する積乱雲 撮影：伊尾木浩二

日本の夏は高温多湿に見舞われます。上空に寒気が入れば積乱雲、雷雨、スコール、マイクロバーストなど突風が突然吹くこともあります。

スカイスポーツを行う上で最も重要なことは、フライトプランを計画すること。パイロット証保有者は必須。気象情報はフライトする前日から確認をするくらいの気持ちが重要です。

予報気象サイトなどを確認し、どういった注意報が発令される可能性があるのか予測します。フライトは何時に離陸して何時頃に着陸するか。着陸するまでの時間帯における風向き、風速、大気の変化はどうなるか。もし、積乱雲の影響で上昇気流が広範囲に発生し緊急降下させて着陸を行いたいと考えた場合、どの程度の時間が必要か。1分で着陸？または10分で着陸？

フライト技術が高く・経験の多い方は、むやみに高度を上げすぎない飛び方、また、降下手段の判断、タイミングが早ければ、苦勞せずに降下させて安全に着陸を行うことができます。

タイミングが悪く、悪い大気（気塊）に遭遇したらどうなる？ 翼のコントロールも一気に難しくなります。また、不安定な大気の場合には翼が強く潰されることも想定しないといけません。状況によっては風が強くなり前進できない。もっと強くなれば後退します。

風が悪いだけではなく雨が降る可能性もあります。パラグライダーで飛行中に雨にあたれば機体性能は一気に悪化します。雨粒はキャノピー後方へ、雨粒の付着面積の割合も上面後方が多くなり重心位置も後方へ。単純に失速

に入りやすくなります。失速を絶対にさせない操縦が必要不可欠となり、着陸場が狭ければ操縦はもっと難しくなります。アウトサイドを含めて。

楽しいはずのフライトが一步誤れば、楽しさどころか怖さを一気に味わう時間となります。今のソアリングしている上昇気流はどういった大気（気塊）で、そのなかをどのように飛んでいるのかを想像することが重要。気象情報をしっかりと把握し、ご自身の技術レベルを考慮したフライトプランを計画し、常に安全意識を高めたフライトを行いましょう。

また地上では気温も高く、熱中症リスクも高まることから定期的な水分補給もしっかりと行いましょう。

真夏の空で安全に楽しくフライトを！

JHFレポート137号以後の事故報告

事故日	機種	内容	練習生	怪我の状況
4月24日	パラグライダー	ラインが絡んでテイクオフ後ツリーランをしようと失速、木から落下		重傷
5月9日	モータータンデム	タンデム飛行でラインが絡んで離陸、失速落下、同乗者重傷		1名重症
5月22日	パラグライダー	着陸前に突風が吹き操作を誤り失速落下	1名	重傷

モーターパラグライダー体験タンデムフライトについて

JHF補助動力委員会／安全性委員会

近年、タンデムフライトによる事故が発生しています。空ではなく海難事故ではありますが、北海道での観光船沈没事故はたいへん考えさせられるものでした。スカイスポーツにおいても安全第一を心がけること、特に初心者と同乗するタンデムフライトにおいては「絶対安全」が重要であり、今回、改めて以下のような注意喚起を発表しました。

注意喚起

1：モーターパラグライダー体験タンデムフライトを行う場合には、安全管理規程を作成し、ルールに従ってフライトしましょう。

【例】

1) 安全管理規程、エリアルール、加入保険の種類と状況などを、スクール経営者または責任者はタンデムパイ

ロットへ伝える。

2) 気象情報、日没時間、タンデム人数、パッセンジャー特有の情報の共有など飛行前にブリーフィングを実施する。

3) 一日のフライト終了後のデブリーフィング（ヒヤリハット、注意することなどについて皆と意見交換を行う）を実施する。

2：リスクのある気象コンディションの場合には、無理なフライトをしないようにしましょう。

3：テイクオフの際にラインの絡み等がないか、必ず目視チェックを行い、ダブルチェックを行うこと。もし、チェック不十分のままテイクオフをしてしまった場合は、できる限り速やかに着陸をすること。その際の動作は「急」を避けて、穏やかに操作をしましょう。

4：タンデムを含めてフライトする際は、技能証規程に応じた技能証を取得

してから行うようにしましょう。

5：フライト内容に応じた適切な保険に加入した上でフライトを行いましょう。（事業として行うタンデムフライトにはフライヤー会員の第三者賠償責任保険は適用されません。）

事故報告

本年5月9日に発生したモーターパラグライダータンデムの事故について。「離陸直後に左翼端にラインが絡んでいることに気づき、上空でポンピングによる回復を試みるも回復しなかった。ラインが絡んでいる側にターンして離陸地点まで戻って着陸しようとしたところ、フラットスピンを起こして約10mの高度から墜落となった。」

パイロット本人からの聞き取りをもとに事故の再発を防止するため情報共有します。身近に起こりうる実例として注意を心がけてください。

夏の海岸では特に注意を／水辺の飛行に浮力体を

海風が心地よい季節になりました。

周囲に十分配慮しマナーを守ってフライトするのは、いつでもどこでも当然のこと。フライヤー会員の皆さんは日頃からエアマンシップを念頭に空を楽しんでいることでしょう。

夏は海水浴客など人出が増えるため、海岸周辺でのフライトは特に注意が必要です。各自マナーをしっかり守って、他人に迷惑をかけず、気持ちよくフライトをしてください。

知らない人にとっては「怖い」もの

住宅地が近い場所や、人がいる海岸でのフライトは「危険を感じるので止めて欲しい」という連絡が、JHF事務局に届きます。

動力の有無を問わず第三者を事故に巻き込まないように注意が必要であることはもちろんですが、一般の方から見ると、道路や人のすぐ上を飛行して

いるように見えて「危険だ」と感じられることもあるようです。

エリア存続のためにも他者に配慮を

同じ場所を何回も繰り返して飛行すると、騒音やプライバシーを気になさる方もいます。

フライトエリアを長く存続させるためには、地元の方の理解を得るための努力を地道に積み重ねていくことが必要です。そんな努力を踏みにじることはならないよう、騒音やプライバシーに充分配慮してください。

地域特有のルールにしたがう

海水浴の方も含め、人が多く出る時期になり、飛行禁止になるエリアもあります。

その地域特有の条例やルールがあるかもしれません。飛びに行く際は、その地域のエリアクラブや、スクール、

地元のフライヤーにまず連絡を取り、フライトの可否について確認をお願いします。

着水リスクを想定し装備を整える

これまで着水による重大事故が何件も発生しています。

モーターパラグライダー（MPG）で水辺をフライトする場合は、パイロット自身がライフジャケットを着用するのはもちろん、エンジンユニット用の浮力体も必ず装着しましょう。

動力のないハンググライダーやパラグライダーでも、水辺のエリアではライフジャケットの着用をお勧めします。また、水上を飛行するときは、十分な高度を確保してください。

この程度の水深なら大丈夫という思い込みは危険です。さまざまな場面を想定して、浮力体など装備を整え、フライトに臨みましょう。

何故事故者の年齢が上がったか

2018年から2022年3月まで約5年間での事故報告書に記載されている対象者14名の平均年齢は65歳。20歳代のパイロットが1名含まれているが、その人を除くと残り13名は59歳以上で、平均年齢は68歳となる。どちらにせよ行政的判断では前期高齢者となる。その中でも重大事故につながった人たちは70歳以上であった。この6年半の間で事故に遭遇したパイロットの年齢は59歳から65歳へと6歳上がったことになる。

これは何を意味するのでしょうか？年齢が高い人に事故が多いのは以前と同じだが、その年齢が上昇した？

否、単純に考えると、すべてのパイロットがただ歳を取ったということかもしれない。ハング・パラグライダー界への若い参入者が少ないので、高齢パイロットが今後も飛行を続ければ、事故につながる人の年齢は今後も単純に上昇するであろう。

昨今、航空運送業界ではラインパイロット不足が続いており、各社ともに健康であれば65歳近くまでパイロット業務を委託している。勿論厳格な航空身体検査がすべてのパイロットに半年毎に行われている。65歳以上では、いくら技能があっても健康が理由で飛べなくなることは航空業界では多い。そのため健康への自己管理はより厳しく行われている。

また米国での個人の航空機売買では売り手が航空機を手放すきっかけは加齢と病気による航空身体検査不合格である。

原則2名のパイロットで運行する場合でもこのように厳しい検査が行われるのは、航空機事故は乗客生命に直結するからである。一方、趣味で空を飛ぶ私達はどうか？事故が生じて本人の障害や生死が問題となるが、機体がどこかにぶつかっても多くの場合は他人への障害とはならないので、年齢や健康を理由に法的に制限されることは無いであろう。

しかし、事故は『ハング・パラグライダーは危険なスポーツ』と世間が捉

えることになる。確かに脚が立たないくらい危険かもしれないが、適切にそれらに対応し安全に飛行を楽しもうとするのがスポーツとしてのハング・パラグライダーではあるので、ラインパイロット程の厳格管理を強いることはスポーツには不適切であると私は思う。

何歳になっても空を飛びたい

さて、高齢者をいつの頃よりか65歳以上は前期高齢者、さらに75歳以上は後期高齢者と呼ぶようになった。この分け方は正しいのかと国会議員が議論していたのを思い出すが、医療の現場から見ていると概ね正しいと思われる。特に身体能力の低下と判断力の低下の面から見ると、残念ながら納得してしまう。

以前パイロットの健康について述べた小論（JHFレポート213号のP10-11掲載「飛行と健康」）に示したように、マラソンランナーと比較しても、ハング・パラグライダーでの心肺停止が多いわけではない、ただ年齢が上がるとどのようなスポーツでも事故率は確実に上昇する。特に60歳以上では著明である。

結論として、パイロットの事故年齢が上がったのは、加齢による身体的問題だけでなく、パイロット全体の加齢化が押し上げたものである。

私達にとって空は夢の泉ですから、何歳になっても空を飛びたいもので



飛ぶ夢はずっと手放したくない（写真はイメージ）

す。

そこで、どうか考えてみると、具体的な助言はいつも同じです。

今回も以前の小論の繰り返しになるが、40歳過ぎたらしっかりした健康診断を1年に1回受けること。病気はちゃんと治療し、薬はちゃんと飲むこと（自己判断でやめぬこと）。薬の自己判断休薬による病状悪化や脳出血例は少なくありません。タバコは血管の収縮を引き起こすので極力吸わないか、少なくとも搭乗前の一服はしないこと。水分の補給は十分にすること。フライト前の12時間はアルコールを飲まないこと。新しい薬を飲み始めて2週間はフライトせずに体調を観察すること。寒さ対策は十二分に行うこと。50歳、60歳、70歳と事故危険率は倍増するので、体調が悪いときは飛ぶことを諦める、気象状況が厳しいと少しでも思ったら飛ばない、無理な飛行操作（スピン、急降下）をしない等。

以上を注意した上での事故は運命とあきらめるしかありませんが、そのことを覚悟した上でこの素晴らしい趣味を楽しんでいることを、家族や友人にしっかり伝えておくのも後々のことを考えれば大切ではないでしょうか。

最後に、私達は加齢に伴うリスクは地上のマラソンランナーと同程度はあることを承知した上で、何歳になっても空飛ぶ夢を手放さないのだと自覚しておきましょう。



いつまでも飛べるよう自己管理を（写真はイメージ）



立山俊朗

タテヤマ シロウ
68歳。緩和会横浜クリニック
理事長/医師。ペインクリニック（痛みの治療）専門医、頭痛専門医、麻酔専門医、機械工学も専門。趣味はパラグライダー、ヨット、日曜大工、軽飛行機（自家用小型機操縦士）。

タイが大きくリード、総合・女子・国別の三冠！

2022年6月21日-29日 カザフスタン Taldykorgan 報告：チームリーダー&選手 岡 芳樹

4回目のアキュラシーアジア選手権はカザフスタンのタルディコルガンで開催された。参加選手は70人。参加国は、アジア圏から、地元カザフスタン、大韓民国、モンゴル、アラブ首長国連邦、サウジアラビア、日本、タイ、ウズベキスタン、イランの9か国。それにノンアジア圏からセルビア、チェコ。さらにFAIの旗の下での参加となるキルギスタンの計12か国。日本チームは、岡芳樹、古賀光晴、山口香代、平野竜二、浅田寛之、橋本みさ紀、伊藤まり子の総勢7名。

6月21日、ヘッドクォーターでレジストレーション後、公式トレーニングで2～4本飛んでから開会式へ。型通りの挨拶の後、郷土の踊りと歌と音楽の演し物を楽しませてもらい、ウエルカムディナーをゲル内で堪能した。いよいよ明日から競技スタート。何とか国別で表彰台に乗りたい。

DAY 1

競技開始。天気は快晴。場の風は弱く本流は北寄りだが、サーマルの影響で変化するここ特有のコンディション。時間と共にサーマルは強くなり、選手を苦しめ、夕方5時を過ぎたところからだんだんと弱まる典型的なもの。

10時少し前からスタートし、ラウンド間にブレイクタイムを入れて、1日中フライト。第4ラウンドで1人のリフライトを残して初日競技を終了。サーマルに翻弄された日本チームだが、マキシマムスコアを出しているキレいどころの選手も。しかしトップに並ぶ選手はしっかりとシングルスコアでまとめているのはさすが。

国別成績は、1位サウジアラビア、2位韓国、3位タイ、4位カザフスタン、5位日本。個人成績は、1位ジラサック・ウィッティータム（タイ）、2位ソンミン・リー（韓国）、3位モーセン・マンズーリ（イラン）、43位橋本、45位浅田、51位古賀、53位岡、60位平野、61位伊藤、62位山口。

DAY 2

朝起きたら、西方向に雲が大きく張

り出している。サブテイクオフを使用することになり、風が安定するまでしばしウエイティングした後、昨日残ったリフライトをまず出して、第5ラウンド開始。時間の経過と共に雲が減少し、いつもの快晴の空が戻ってくる。エリア全体としては、典型的なカザフスタンコンディションでテイクオフの風は北寄りから西寄りを行ったり来たりして0～3m/s。時折5m/sを超えることはあったが、特に問題なくラウンドを回すことができた。

10時過ぎから4時過ぎまでサーマルバンバン状態で、サーマルに嫌われるとパッドが遠く非常に難しいコンディション。15時25分、第8ラウンドがスタートしたが、約半数が飛んだところで風が強まり、本日はこれまでに。

7ラウンド終了時点で、国別1位タイ、2位韓国、3位カザフスタン、4位サウジアラビア、5位日本。個人1位ジラサック・ウィッティータム（タイ）、2位キム・キ・ヒョン（韓国）、3位ナワフ・アルレハイリ（サウジアラビア）、40位橋本、41位浅田、44位岡、45位古賀、49位山口、52位平野、56位伊藤。明日は悪天候の予報で休息日。

DAY 4

サブテイクオフにてパイロットブリーフィング。昨日のレストデイで十分休息はとれたと思うと競技委員長から話があったが、ここの暑さによる疲労は、1日では取れないことを日本チームは実感していた。本日の予定は、第10ラウンドまでとするとのこと。このエリアの飛べる確率と予報から判断して、残る4日間で、2ラウンドをこなせることはほぼ間違いがなく、しかも明日1日で終了するであろうことは誰もが思っている。

高層雲によって日差しが遮られ、暑さも和らぎ、サーマルもほぼない、このエリアでは絶好のコンディションではあったが、長くは続かず、徐々にこのエリアらしくなった。しかし、これまでのようにサーマルバンバンで、翼端を折っても上がるほどにはならな

かった。このコンディションでも上位陣のほとんどの選手はシングルスコアを連発する。

テクニカルトラブルにより中断はあったものの、14時32分に本日の競技を終了。10ラウンドで、個人1位、ジラサック・ウィッティータム（タイ）、2位ナワフ・アルレハイリ（サウジアラビア）、3位モーセン・マンズーリ（イラン）、41位橋本、43位浅田、45位岡、52位伊藤、54位山口、55位古賀、57位平野。国別1位タイ、2位韓国、3位サウジアラビア、4位カザフスタン、5位日本。

DAY 5

ついに今大会最終日となるであろう日が明けた。パイロットブリーフィングで、予定通り第11ラウンドを行い、最終となる第12ラウンドはリバースオーダーで行うこと、また第11ラウンドはサブテイクオフを使用、最終となる第12ラウンドはメインテイクオフを使用する予定と発表された。

いざスタートしようとするが北寄りの風に変化してきたため、テイクオフをメインに移し、9時30分に第11ラウンドがスタート。弱かったサーマルもラウンドが進むにつれてだんだん強くなり、いつものコンディションに。11時過ぎに第11ラウンドが終了し、選手がランディングで休んでいる間に11ラウンドのスコアが決定。その時点での成績の逆順のリバースオーダーが発表され、全選手はテイクオフへ。

そして12時、ついにファイナルラウンドがスタート。全方向20～30kmほど遠方に積雲がストリートを形成して、XCに出たいコンディションでは



今回の日本チームは総勢7名。岡リーダーを中心に。

あったが気を取り直して、最終ラウンドに集中する。途中でテイクオフをサブに変更し、後続の選手がフライト。リバースオーダーだと選手は緊張するだろうが、やはり皆が楽しめるのは大変うれしいルールだと改めて実感する。中でもトップ10に入る選手は、ミスすることなくしっかりとパッド、しかもシングルの小さいスコアをたたき出すのだから、彼らのグライダーコントロールには脱帽せざるを得ない。

ファイナルラウンドで最後にテイクオフしたのはタイのジラサック選手。彼は11ラウンドまでで9点のラウンドを削除して、何と、このラウンドで外して200点をたたいても1位の座が揺るがないという、プレッシャーゼロのフライトだった。

しかしそれで終わらないドラマが待っていた。女子トップであった韓国のドンワ・ヤン選手がリフライトでショートし200点を貰い、それまで2位と思っていたタイのチャンチカ・チャイサヌク選手が女子チャンピオンの座につくことに。さらに、2位と3位を競っていた、イランのモーセン・マンズーリ選手と、サウジアラビアのナワフ・アルレハイリ選手が同点の2位となり、タイブレークのフライトを行うことに。

タイブレークで最初に飛んだのは、11ラウンドで3位であったナワフ選手。慎重にターゲットを狙ったが、これまでで最悪の68cmをたたく。かなり有利となつてはいるが、この結果を確認できていないモーセン選手は果たしてどうなるか。そしてパッドは踏んだが、微妙と思える8cm。本人的には「もしや、まずったのでは」と思った（ように見えた）瞬間、観客から拍手が起こり、2位になったことを確信してほっとした（と思う）。本当に劇的な瞬間を見させてもらって、感激した。

全12ラウンドを終え、翌27日は自由行動、28日は車で1時間半ほどのエリアでフリーフライト、29日は帰国のためのPCR検査、閉会式・表彰式。

昨年の世界選手権は雨に祟られ最低の3ラウンドが成立して、何とか選手権として成立したが、今回のアジア選手権は天候に恵まれ、5日目にして12ラウンドを消化。リラックスして過ごせる日もあり夢のようだった。

最後に、JHFからの助成に対し感謝するとともに、不甲斐ない成績でJHF並びにフライヤー会員の皆様の期待に応えられなかった反省を胸に、今後のトレーニングに励んでゆく所存です。

[個人総合]

- 1位 ジラサック・ウィットティータム タイ
- 2位 モーセン・マンズーリ イラン
- 3位 ナワフ・アルレハイリ サウジアラビア
- 4位 ヴラスティミール・クリックナー チェコ
- 5位 ニキータ・マルニコフ カザフスタン
- 6位 アルマス・アクメトフ カザフスタン
- 42位岡 45位橋本 49位山口
- 51位浅田、56位伊藤、58位古賀
- 59位平野

[女子]

- 1位 チャンチカ・チャイサヌク タイ
- 2位 ドンワ・ヤン 大韓民国
- 3位 ユヨン・チョ 大韓民国
- 7位橋本 8位山口 11位伊藤

[国別]

- 1位 タイ
- 2位 大韓民国
- 3位 カザフスタン
- 4位 サウジアラビア
- 5位 日本。

[ジュニア] 今年から新設された26歳以下のクラス

- 1位 ジフン・ヨー 大韓民国
- 2位 タナパット・ルアングアム タイ
- 3位 チャンチカ・チャイサヌク タイ

結果の詳細は；

4th FAI Asian Paragliding Accuracy Championships (civlcomps.org)



タイブレークで総合2位を守ったモーセン・マンズーリ。



アジア選手権者、ジラサック・ウィットティータム。



個人総合上位者。



女子はチャンチカが逆転勝利。



国別表彰。タイが本領発揮、頂点に立つ。



ジュニア（26歳以下）表彰。

新歓活動の実施

2022年度スローガンである新歓活動について報告させていただきます。

足尾エリアでは昨年行えなかった多摩川河川敷での浮遊体験を実施しました。体験会はパラ・ハング・VR体験の三つの部門に分かれて行いました。

新たな試みとして行ったVR体験は、テイクオフからランディングまで撮影した映像をパラグライダーのハーネス



多摩川河川敷でのVR体験。新たな試みに十分な手応え。



ハングの浮遊体験。滑空する楽しさを感じてもらった。

に乗りながら見てもらうというものです。地上での浮遊体験だけでは感じられない空中からのリアルな映像は、スカイスポーツをより分かりやすく伝えられたと思います。2日間にわたって行った合同説明会では80人近くが参加し、これをきっかけに入部を決めたという声もちらほら聞こえたため、十分な成果をあげられたのではないかと思います。

他には例年通り現地での浮遊体験も行いました。講習場での体験に加え、テイクオフとランディング場の見学を行いました。実際に私自身が飛び立つところを体験生に見せたり、宿舎の案内を行うなど、活動の雰囲気を味わってもらうことができました。結果としてたくさんの新入生が入部してくれて、コロナ以前の賑わいをだんだんと取り戻しつつあります。

映像の提供や体験会のサポートをしてくださったインストラクターの皆様、ありがとうございました。

今後の活動

今年度は実に4年ぶりとなるハンググライダー学生選手権を開催します。

日程は8月23日から25日まで、3日間の予定です。コロナによってなかなか開催ができず、大会の楽しさを知る学生が少なくなってしまうと、大会に出場したことがないので、同世代の学生と競い合えることを楽しみにしています。

今年度は私が大会実行委員長を務めさせていただきます。わからないこと、至らない部分が多いと思いますので、ご協力よろしくお願いいたします。たくさんのエントリーをお待ちしております。

また9月6日から3日間、砂丘合宿も開催される予定です。私はドライバーとして新入生を連れて参加しようと思います。2022年度スローガンである他大学との交流の機会になるとともに、多くの新入生が上達する良い機会にもなると思います。こちらもぜひ参加を検討してみてください。

今年度、学連はツアーや大会に力を入れていこうと考えております。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

副理事 櫻井悠馬

JHFからのお知らせ

■HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンググライディング技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンググライディング教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布を開始しました。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。

また、2021年3月、皆さんにお待ちいただいていた『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行しました。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の場合は、1冊2,800円です。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文く

ださい。事務局にご注文の場合は、JHFウェブサイト「JHFのご案内〔書籍情報〕」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお



振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。

■チェック5タグを頒布中

JHFではハンググライディング・パラグライディングの事故撲滅を目指して「空の事故ゼロキャンペーン」を実施。その一環として「チェック5タグ」を作り、2018年にフライヤー会員の皆さんにお届けしました（新規会員の方には登録時にお届け）。

ハーネスなどに装着し、テイクオフ前にタグを読み上げて、プレフライトチェック（セルフチェックならびにクロスチェック）をしっかりと行ったことを確認していただくためのものです。

今年もレッグベルト締め忘れによる重大事故が起きてしまいました。「自分は大丈夫、ベルトを締め忘れるはずがない」と思い込むことなく、タグを

読み上げての飛行前確認をぜひ習慣にしてください。

このタグをご希望の方は、各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局から直接お送りすることもできます。1セット300円（送料込み）です。事務局にメールかFAXでご連絡をお願いします。

■氏名・住所変更のお知らせを

発行のたびにJHFレポートが宛先不明で事務局に戻って来ます。お名前やご住所に変更があったら、早目に事務局にメールかFAXで下記をお知らせください。

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしもお仲間に転居された方がいたら「JHFに住所変更の連絡した？」

と声をかけていただけると、たいへん助かります。

■転居のお知らせや各種申し込み

お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟

〒114-0015 東京都北区中里1-1-301

TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089

E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp

https://jhf.hangpara.or.jp

事務局業務の効率化のため、ご連絡はできるだけメールでお願いします。回答が通常より遅れることがあります。が、順次対応をいたしますのでご理解ください。

*このJHFレポートには、賛助会員からのお知らせを、神奈川県、静岡県在住の方には県連盟からのお知らせも同封しています。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・

パラグライディング連盟

JHFレポート238号

発行日：2022年（令和4年）7月30日

発行：公益社団法人 日本ハング・パラグライディング連盟（JHF）

編集：JHF事務局

印刷：株式会社アイセレクト



www.toto-dream.com www.toto-growing.com
©19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。
運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

上空利用可能デジタル無線機 使用のお勧め

2022年にアナログ式簡易無線機の運用が終了することに備えて、JHFではハンググライダーやパラグライダーのフライト中に使用する無線機として「簡易無線登録局」対応のデジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル方式の音声なので、混信もすくなくクリアで聞き取りやすくなっています。現在の対応機種はSTANDARD製のVX-291S、VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-D510です。

JHF賛助会員(JHFウェブサイト)にバナーを掲載)からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル無線機を15台保有し、フライヤー会員に貸し出しをしています。ご希望の方はJHFウェブサイトの「JHFのご案内」をご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方は、無線機の登録手続きを済ませ利用料を納めているか、ご確認ください。登録をしないまま無線機を運用すると、不法無線局として処罰の対象になります（1年以下の懲役または100万円以下の罰金）。お忘れのないようお願いします。